

—収蔵資料紹介—

アイヌ絵下絵

(資料番号：美術 291)



左(美術 291-34)：赤字で、「○此頭巾の上へ紐をはられたるハあしく頭巾の顔には隠れたるがよろし ○頭巾なきとても半口ならよし両方とも二隠れたるハ悪し」という書込があり、さらに赤字で修正した跡があります。

右(美術 291-32)：上方に多くの女性の顔が描かれている部分には、「髪多ク画コト悪シ賤ゲナルナリ雅ナルヲ好ムヘシ ヲタフクノ面ニスヘシ人中国画ヘカラズ アルハアシ也 ロノ入墨ナキモヨシ又アルモ宜 点シガタキモノナリ ロニテ洒落ニ一点アルカ」、中央には「女夷カタヲノカセテ両袖ヲ前ノ服ノ處ヘカキ込ミテツボウノ下衣ヲアラハシタルカヨシ○シリハ大キク画老女ハ格別ナリ○ロハフチニ入墨ヲスル故格好ヨリ小二画方ヨシ○ヲヲキ中ニハレクテムヲカケタルモアルベシ耳金モアルモアリナキモアルカ宜シ男女トモニ○男夷ニ魚ヲナゲツケル写意ナリ」と書かれています。

この資料は、和人がアイヌの人々を描いたいわゆる「アイヌ絵」の「粉本」「画稿」「下絵」などと呼ばれる、絵師の手控えとされる墨絵(全38枚)です。その性格上、完成作品とは異なり、残されることが少ない資料といえます。

一般にアイヌ絵は、松前藩の絵師や蝦夷地を訪れた幕府の役人・文人、蝦夷地在住の町絵師らによって描かれました。蝦夷地の調査報告や旅行記のなかで、その風俗が描かれたほか、画題としてはアイヌの「異風」を和人に伝える「イメージ」として描かれました。とくに後者の場合、実際には和人とアイヌの生活が変容しても、絵のなかでは大自然のなかで昔ながらの漁労や狩猟に従事する、定型化された姿で描かれることが多くなります。

下絵をよく見ると、彩色も少なく細部が省略されるなど、一見して絵としての完成度は劣ります。しかし、他のアイヌ絵にはない、漁場で働くアイヌを見ながら描いたと思われる臨場感あふれる場面や、表情豊かなアイヌの人々が描かれていることに気づきます。笑顔いっぱいのアイヌの顔ばかりを描いた絵、弓を射るアイヌの動作を様々な角度から描いた絵、船を漕いだり魚を運んだりする作業を描いた絵、酔っ払っていたり食事をとったりする様子を描いた絵など、漁場での「日常」が、写実的でコミカルな筆致で描かれています。絵を類型化すると、現場で写生したもの、様々なポーズを試した図案集的なもの、具体的作品の下書きと見られるものなど、作画段階の異なる絵が含まれているようで、絵の中の詞書(書き込み)には、場面の説明や描き方の注意点のほか、まるで師匠が弟子に指導しているような箇所も見られます。

残念ながら絵には作者を示す情報はなく、履歴も明らかではありません。1枚の絵のなかに明らかに複数の筆跡での書き込みが確認できる一方、一見、異なって見える絵の描き方は、よく見ると類似箇所がチェーンのようにつながるようで、この絵が1人によるものか、複数によるものかも特定できていません。

同一作者によると見られる「林家旧蔵アイヌ風俗画画稿類」を小樽市総合博物館が所蔵しています(林家は余市で漁場を経営)。また、アイヌの人々が公式に人を訪ねるときに腰を屈めて手を繋いで歩く姿を描いた「オンガミ図」は、当館とほぼ同じ図柄が、小樽市総合博物館の画稿類(同資料群のなかの模写資料には「波洲」の号が見られる)、波嶋筆「アイヌ人物六曲一双屏風」(東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館)、波静筆「蝦夷人物図六曲一双屏風」(木内家蔵・にかほ市象潟郷土資料館寄託)、「アイヌ人物二曲屏風」(大塚和義氏蔵)などでも確認され、これらの作品の比較検討により、「アイヌ絵下絵」も蠣崎波響に連なる「波」を冠する絵師によって、幕末から明治初期に描かれたものと考えられます。(奥野 進)

— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※平成 28 年 3 月 31 日現在

分類	件数	点数
博物館史	300 件	1,500 点
地質鉱物	20 件	2,000 点
植物	10,100 件	10,400 点
動物	7,900 件	21,700 点
考古	2,800 件	575,900 点
歴史	4,900 件	21,700 点
民俗	6,600 件	32,800 点
民族	6,800 件	8,400 点
美術工芸	3,000 件	4,000 点
合計	42,420 件	678,400 点

※一括は 1 件 1 点と計算しています。

※100 以上は 2 桁の端数を切り下げ表示し、100 未満は 1 桁の端数を切り下げ表示しているため、実際の数値より少なく表示しています。

平成 28 年 新収蔵資料

※平成 28 年 1 月 1 日～12 月 31 日登録分

- 戸井の板碑 1 件 2 点
【函館市：宇美 ユキ子 氏 寄贈】
- 鎌田俳奈子「浮遊」 他 2 件 2 点
【函館市：鎌田 直善 氏 寄贈】
- 札幌国際大学旧蔵考古資料 1 件一括
【札幌市：坂梨 夏代 氏 寄贈】
- サイベ沢遺跡出土資料 1 件 4 点
【函館市：佐藤 美代 氏 寄贈】

- 函館カルタ 1 件 1 点
【函館市：木村 マサ子 氏 寄贈】
- ミソサザイ 1 件 1 点
【北斗市：佐藤 理夫 氏 寄贈】
- 深鉢形土器 他 7 件 1,773 点
【札幌市：児玉 譲次 氏 寄贈】
- 無切伏刺繍衣 1 件 1 点
【函館市：三好 照子 氏 寄贈】
- 白布切抜文衣 他 5 件 5 点
【函館市：浜田 克己 氏 寄贈】
- 恵山郷土博物館資料 1 件一括
【函館市教育委員会恵山教育事務所 移管】
- 販売用ケース 他 46 件 131 点
【函館市：小林 忠男 氏 寄贈】

資料燻蒸

平成 28 年 9 月 3 日（土）～5 日（月）
（博物館史・自然・歴史・民俗・美術資料）
平成 28 年 11 月 7 日（月）～9 日（水）
（民族資料）

博物館実習生受入

平成 28 年 8 月 26 日（金）～9 月 17 日（土）
京都造形芸術大学 1 名
北里大学 1 名
神奈川工科大学 1 名
東京学芸大学 1 名
駒澤大学 1 名

— 普及（展覧会） —

企画展



名 称	市立函館博物館50年 函博コレクション 未来 に残したい珠玉の逸品
期 間	平成28年6月14日(火) ～8月28日(日)
開館日数	76日間中67日
後援・協力	公立はこだて未来大学 他 計3機関
出品協力	函館市中央図書館 他 計4機関
出品資料	菅原コレクション 他 計895点
観覧者数	2,984名
関連事業	講演会「草人 菅原繁 蔵と共に」 講座「函館山の植物を 見る会」「塗り絵で楽し む植物」
担 当	佐藤 他

平成 28 年が市立函館博物館本館開館から 50 年目に

あたることから、本館開館以来収集されてきたコレク
ション資料を一堂に展示しました。



菅原繁蔵の遺品を前に展示解説



名 称	新収蔵資料展
期 間	平成28年9月17日(土) ～11月6日(日)
開館日数	51日間中39日
後援・協力	市立函館博物館友会の会 他 計2機関
出品協力	なし
出品資料	木彫り熊 他 計29点
観覧者数	1,829名
関連事業	展示解説セミナー
担 当	大矢



新収蔵資料展での展示解説

平成 28 年度展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日	4/1～5/29		5/31～ 6/12	6/14～8/28		8/30～9/16	9/17～11/6		11/8～ 11/18	11/19～3/31		
ロビー	常設展		展示 替え	企画展 「市立函館博物館50年 函博コレクション 未来に残したい珠玉の逸品展」 担当:佐藤・奥野・小林・保科・大矢		展示替え 資料燻蒸 博物館実 習	企画展 「新収蔵資料展」 担当:大矢		展示 替え	美術収蔵資料展 「館蔵絵画紹介コーナー」 担当:奥野		
第1 展示室	常設展						博物館史収蔵資料展 「本館開館とコレクション資料」 担当:佐藤・奥野・大矢			博物館史収蔵資料展 「本館開館とコレクション資料」 担当:佐藤・奥野・大矢		
第2 展示室												
第3 展示室												
							考古収蔵資料展 「考古資料コレクション」 担当:小林				考古収蔵資料展 「考古資料コレクション」 担当:小林	
							歴史収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:保科				歴史収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:保科	
							複合展示「想像する」				複合展示「想像する」	

共催・協力事業

※平成 28 年 1 月 1 日～12 月 31 日実施分

- 箱館奉行所常設展示（平成 22 年 7 月 28 日～ ） 本館所蔵「エンフィールド銃」他 計 6 点貸出
- 函館市立港小学校 6 年生社会科授業（平成 28 年 3 月 9 日～17 日） 本館所蔵「函館大火遺物」 2 点貸出
- 函館市縄文文化交流センター常設展示（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日） 本館所蔵「ヤス」他 計 99 点貸出
- 函館市教育委員会主催「千代台公園野球場 1 階ロビー展示」(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日) 本館所蔵「太洋倶楽部トロフィー」他 計 11 点貸出
- 函館市教育委員会主催「函館空港ギャラリー常設展示 函館縄文遺跡探訪－函館空港遺跡群と北の縄

- 文文化－」（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日） 本館所蔵「伊藤コレクション」他 計 17 点貸出
- 国立歴史民俗博物館展示複製品製作（平成 28 年 4 月 1 日～30 日） 本館所蔵「尖底深鉢形土器」貸出
- 全道美術協会主催「第 71 回全道展」（平成 28 年 6 月 15 日～26 日） 本館所蔵「拡散する黄」貸出
- 北海道立北方民族博物館主催平成 28 年度特別展「北からの文化の波－北海道の旧石器からオホーツク文化まで－」(平成 28 年 7 月 16 日～10 月 16 日) 本館所蔵「深鉢形土器」他 計 25 点貸出
- 函館市北方民族資料館平成 28 年度収蔵資料展「アイヌの生業－捕る・獲る・採る－」（平成 28 年 7 月 23 日～11 月 3 日） 本館所蔵「木幣」他 計 63 点展示協力

- 盛岡市先人記念館主催第55回企画展「盛岡スポーツ名士録ー明治期から昭和45年国体までー」(平成28年7月23日～9月25日) 本館所蔵「トロフィー」他 計16点貸出
- 北海道立函館美術館主催開館30周年新収蔵記念「蠣崎波響展」(平成28年8月21日～10月2日) 本館所蔵「富岳暁光図」他 計7点貸出
- 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主催平成28年度アイヌ工芸品展「イカラカラーアイヌ刺繍の世界」(平成28年9月17日～11月3日・平成29年2月4日～3月20日) 本館所蔵「頭巾」他 計15点貸出
- 道南・アイヌ民族との連帯を考える市民の会主催「マウコピリカ音楽祭 in 函館 vol. VIIIーピカタレラー」(平成28年9月3日) 後援
- 函館アイヌ協会主催「イチャルパ(先祖供養の儀式)」(平成28年11月13日) 後援

資料利用(掲載等)許可

※平成28年1月1日～12月31日申請分

- 考古資料(「サイベ沢遺跡発掘映像」等) 22件
- 歴史資料(「日米野球サインボール」等) 38件
- 民俗資料(「漁船模型」) 1件
- 民族資料(「鉄製口琴」等) 21件
- 美術資料(「山開目黒新富士」等) 9件

平成29年度企画展開催予告

※展覧会名称および開催期間はいずれも予定

- 企画展「能登川コレクション展ー肉屋の社長の考古学ー」(6～8月)

函館の考古学者能登川隆が収集した考古資料群「能登川コレクション」は、北海道指定文化財や函館市指定文化財などで構成され、学術的に貴重な資料群として広く認知されています。

本企画展では、能登川隆が収集した考古資料や研究資料とともに、能登川家が経営していた㊦精肉店に関わる資料を展示します。



能登川コレクション「榎法華出土の尖底深鉢形土器」

ー普及(講座)ー

平成28年度 講座開催実績

【通年講座】

No.	講座名	開催期間	講師	参加/定員
1	古文書調査	4月13日～10月20日 年20回	保科	6 / 6
2	自然観察入門講座 ー自然の物知り博士をめぐろうー	4月10日～3月12日 年10回	佐藤	26 / 20
3	四季の星空観測講座 ー函館・四季の夜空観測ー	4月22日～1月27日 年4回	佐藤	6 / 20

計 38 / 46 名

【単講座】

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
1	美術鑑賞会 「アイヌ絵」	5月14日	奥野	5 / 10
2	宇宙と天体 「春の星座を見てみよう」	5月20日	佐藤	13 / 15
3	「博物館旧一号館公開」	5月25日	ー	191 / ー
4	地域の身近な自然を調べる 「浜辺の漂着物を調べよう」	6月19日	佐藤	3 / 15
5	講演会 「草人 菅原繁蔵と共に」	7月3日	外部講師 佐藤	30 / 30
6	宇宙と天体シリーズ 「夏の星座を見てみよう」	7月15日	佐藤	16 / 15
7	「函館山の植物を見る会」	7月17日	外部講師 佐藤	11 / 20
8	夏休み自由研究 「ふれてみよう！みのまわりのアイヌ語」	7月24日	外部講師 大矢	中止 / 15
9	夏休み自由研究 「鉄道車両の仕組みとJR見学会」	7月27日	外部講師 佐藤	39 / 40
10	わくわく科学教室 「ドライアイスで遊ぼう」	7月28日	佐藤	19 / 20
11	「塗り絵で楽しむ植物」	7月29日	佐藤	16 / 15
12	わくわく科学教室 「乾燥剤でくまき砂」を作ろう」	7月30日	外部講師 佐藤	16 / 15
13	夏休み自由研究 「黒曜石で矢じりを作ろう」	8月4日	外部講師 小林	14 / 15

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
14	夏休み自由研究 「和綴じ本を作ろう」	8月6日	外部講師 奥野	9 / 10
15	夏休み自由研究 「日本画に挑戦！」	8月7日	外部講師 奥野	5 / 10
16	夏休み自由研究 「博物館子供探検隊」	8月10日	保科	7 / 10
17	夏休み自由研究 「にんにく沢たんけん隊！」	8月12日	外部講師 佐藤・奥野	8 / 25
18	夏休み自由研究 「縄文土器を作ろう」	8月14日	小林	15 / 15
19	「博物館旧一号館公開」	8月21日	ー	32 / ー
20	美術鑑賞会 「蠣崎波響」	9月24日	奥野	13 / 10
21	「体験！日本画教室」	10月2日・8日・16日	外部講師 奥野	4 / 10
22	やさしく学ぶ 「北海道南部のアイヌ語」	10月29日	外部講師 大矢	21 / 15
23	学芸員こぼれ話 「函館のアイヌ文化」	12月11日	大矢	9 / 15

計 496 / 345 名

【展示解説セミナー】

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
1	展示解説セミナー 「函館の歴史とお宝紹介」	5月4日	全学芸員	7 / 30
2	展示解説セミナー 企画展「市立函館博物館50年」	7月2日・26日	佐藤	18 / ー
3	展示解説セミナー 企画展「新収蔵資料展」	9月17日	博物館実習生	10 / 30

計 35 / 60 名

【学芸員の特別講座】

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
1	行ってみよう！博物館 「博覧学のススメ」	随時 (休館日等を除く)	全学芸員	164 / ー

出前講座等

※平成28年1月1日～12月31日開催

■自然分野（はこだて国際科学祭）	1件
■民族分野（アイヌ文化に関するもの）	1件
■郷土資料（デジタルアーカイブに関するもの）	1件

協力機関等

菅原孝明、函館植物研究会、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、JR北海道函館運輸所、富士シリシア(株)、今金町教育委員会、宮村智子、安積徹、NPO法人北の森と川・環境ネットワーク、様似町教育委員会（順不同・敬称略）



茶室で開催した美術鑑賞会「アイヌ絵」

一調査・研究一

調査事業

- 博物館資料調査研究事業（奥野）
- 次年度展覧会調査（小林・大矢）

研究論文・一般著述等

※平成28年1月1日～12月31日掲載分

- 大矢京右ほか2016「バイダルカ・プロジェクションマッピング～文化財へ直接映像投影をした展示の実践～」『映情学技報』40(11):pp. 295-298, 一般社団法人映像情報メディア学会;東京
- 大矢京右2016「市立函館博物館所蔵潤潟コレクション」『北海道民族学』12:pp. 25-34, 北海道民族学会;札幌市
- 奥野進2016「梁川剛一資料の収集経過とその周辺」『市立函館博物館研究紀要』26:pp. 31-42, 市立函館博物館;函館市

資料調査・取材対応

※平成28年1月1日～12月31日申請分

■考古資料（「磨製石斧」等）	11件
■歴史資料（「トロフィー」等）	3件
■民俗資料（「山下式ストーブ」）	1件
■民族資料（「蝦夷錦打敷」等）	14件
■美術資料（「アイヌ風俗12ヶ月屏風」）	1件

印刷物発行

※平成28年1月1日～12月31日発行分

- 市立函館博物館2016『市立函館博物館研究紀要』26
※平成28年3月31日発行 42頁
- 市立函館博物館2016『市立函館博物館50年 函博コレクション 未来に残したい珠玉の逸品展』
※平成28年6月14日発行 30頁

一博物館短信一

戸井の文化財を展示公開

4月5日、市内小安町に函館市戸井西部総合センターがオープンし、その一角に戸井地区出土の文化財展示コーナーが設けられました。

同コーナーには当館所蔵の戸井貝塚出土の土器や骨角器、また北海道指定有形文化財の「戸井の板碑」が展示され、オープニングセレモニーで多くの市民にお披露目されました。

同センターは毎週月曜日と年末年始が休館となっており、展示コーナーの観覧は無料です。

「博見学のススメ」はじめました

6月から、新たな博物館講座として「行ってみよう！博物館「博見学のススメ」」を新たに始めました。来館者への「おもてなし」をキーワードに、「展示解説」「バックヤード・ツアー」「見せます！お宝公開！」

「明治の博物館見学」の4コースを設置。事前申し込みにより学芸員が館内をご案内するものです。

6～12月に展示解説を中心として164名のお申込み・ご参加をいただき、初年度としては上々の滑り出しとなりました。

ボランティア活動

当館ではこれまでも館内清掃や印刷物のデジタル化などで北海道立五稜郭支援学校の多大なるご協力をいただいていたましたが、今年度も本館館内や旧一号館・二号館の清掃作業ならびに博物館資料の清拭作業などにご協力をいただきました。

生徒の皆さんの勤勉かつ実直な作業のおかげでガラスはきれいに磨き上げられ、博物館資料の整理も大きくはかどりました。この場を借りて同校生徒の皆さんと先生方に心より感謝申し上げます。

掛け軸展示体験

平成26年度から本館第3展示室に「情報ブース」を設置し、公立はこだて未来大学木村健一教授研究室と共同で毎年様々な実験的試みを実施していますが、本年度は「ハンズオン展示 掛ける、見る、しまうー掛け軸展示体験」を10月8日から公開しました。

普段触れる機会の少ない掛け軸を、来館者が自分で展示スペース壁面に掛けて、鑑賞後にしまうまでを体験できるもので、体験した来館者からは絵画を間近に鑑賞できた感動や、掛け軸の構造への理解が深められたなどの感想をいただきました。

アイヌの伝統儀礼イチャルパを実施

本年文部科学省による「博物館におけるアイヌの人々の遺骨及びその副葬品の保管状況等に関する調査」が実施され、それにとまなう館内調査の結果、当館でアイヌの方々のご遺骨10件とアイヌの方々の可能性のあるご遺骨19件の存在が確認されました（その後の調査により、現時点では前者11件ならびに後者14

件）。当館では函館アイヌ協会に収蔵の経緯についてご説明するとともに、その保管などについて協議を行い、現在保管状況の適正化を実施しています。

11月13日には函館アイヌ協会主催により、当館で保管しているご遺骨のイチャルパ（先祖供養）が当館横の広場で実施され、無事に儀式を終えることができました。



イチャルパの様子

平成 28 年度職員構成等

館長

斉藤総一

博物館協議会
(委員 11 名)

管理担当

埜畑 亘 (主査)

山本裕子

政田 泉

三浦真人

小林政人 (臨時)

学芸担当

佐藤理夫 (主査、自然・博物館史)

奥野 進 (主査、美術・歴史)

小林 貢 (考古)

保科智治 (歴史・民俗)

大矢京右 (民族・民俗)

山本泰子 (嘱託)

図書館郷土資料担当

霜村紀子 (主査)

長谷川佳代子

佐藤珠江 (嘱託)

福本衣栄 (嘱託)

坂本恭子 (嘱託)

奥山麻央 (嘱託)

SARANIPーサラニップーNo. 56

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17 番 1 号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

ー誌名SARANIP(サラニップー

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。